

ヤングケアラーの支援

早期発見に努める



答弁中の平松町長

問

コロナ禍の中で、抱える悩みを誰にも相談できず社会的に孤立して生きる人が、昨今、増えています。特に高齢者を介護する家族のケアや世話を担う18歳未満の子供達はヤングケアラーと呼ばれています。が、厚労省と文科省がまとめた全国調査で、世話をしている家族がいると答えた中学生は約17人に1人、高校生は約

24人に1人という結果が出ています。また、親の手伝いの延長線とする風潮もあり、他のケアラーに比べると自分は大きくなると助けて求めにくくなる子もいます。そういうヤングケアラーの支援策はどのようにされていますか。お伺いいたします。

答 吉本子ども教育課長



白水 春夫 議員

(写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)

県教育委員会指導のもと、調査を行った結果、須恵町にはヤングケアラーに該当する児童生徒はいませんでした。今後、児童生徒へのヤングケアラーの啓発を進めていくとともに、生活アンケートなどの内容で把

握したり、教育相談を実施したりして早期発見に努めてまいります。ほとんどの児童生徒は、家族のために自分が頑張っているや兄弟姉妹を助けたいという優しい心を持っており、手伝いに苦痛を感じないと思われ、そのため、子どもの心を傷つけないよう、保護者との関係を悪化させないよう慎重な対応が必要だと考えています。

また、全ての学校には、ヤングケアラーに特化したものではありませんが、相談ポストが設置されており、児童生徒の声を広く受け止めることができますようにしています。要保護児童対策地域協議会において、福祉課、健康増進課などの関係課、スクールカウンセラーやスクールカウンセラー、さらには児童

答 平松町長

子ども食堂の問題も含めて、ヤングケアラーのような子どもたちがいるのであれば、救うのが行政や教育委員会の役割だろうと思います。ヤングケアラーの発見には、非常に専門的な知識が必要で、デリケートな問題ですが、それを見つめる目を持つよう学校の養護教諭、担任、教務主任、教頭、校長が神経をとがらせる必要があります。

また、教育長には、スクールカウンセラーが力を発揮する運用を再度お願いしています。今後とも、ヤングケアラーの把握を専門的見地に立って、慎重に取り組んでいきたいと思っております。

一／般／質／問

うかがいます



追跡 一般質問のその後

執行部の答弁は実行されているのか？

過去の一般質問の内容に対し、どのような対応がなされたか、また、どのように町政に反映されているのか追跡しました。

久我記念館周辺の緑地整備を (令和2年12月議会)

質問 山々が紅葉で色づき、久我記念館周辺もモミジ等が紅葉し自然豊かです。久我記念館来館者や散歩をされる方の憩いの場として整備し、活用したらどうでしょうか。この場所は景観が良いところですが、残念ながら木々がかすかにしか望めません。環境整備についてお尋ねします。

答弁 久我記念館から市街を一望できる展望、そして町のランドマークとなるよう、周辺の杉林との調和を図りながら、景観の妨げとなっている樹木の整備を次年度より計画的に実施したいと考えています。また、記念館へのアクセスの利便性を図るためにも、周辺の自然を活かしつつ、駐車場の整備も考えています。

その後

進捗状況 芸術文化と豊かな自然を同時に楽しむ環境づくりを行いました。樹木の一部伐採を行い、市街を望む眺望が良くなりました。自然教育推進協議会による樹木札の設置は、散策される人が植物に親しむ機会を生みました。東屋は、九州産業大学造形短期大学の学外アートプロジェクトによる絵画が描かれ、より魅力的な施設に生まれ変わります。また、アクセスの向上のために駐車場整備工事を実施し、藤浦団地側に新たに23台分の駐車スペースを確保しました。同時に美術館までの遊歩道も整備し、より利用しやすくなりました。今後も継続してアートと自然が共生する空間づくりを目指します。

美術センター 久我記念館
所在地 須恵町須恵77番地1
電話 092-932-4987
開館時間 午前10時～午後5時
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、盆と年末年始

入館無料

【以前の様子】



久我記念館から見た景観

東屋から見た景観

【きれいに整備された久我記念館周辺】



新設された東屋前の駐車場



森の中の美術館



「旅するチョウ」と言われているアサギマダラ



QRコード付きの樹木札

久我記念館周辺には、多くの樹木や花があり、季節ごとに違った姿を見せてくれます。それに誘われて、色々な鳥や虫たちも訪れます。



整備された東屋への道



藤浦団地側の階段上から